

3) 短時間の貯留では充分な浄化はできない。

しかし 長期滞留させることによりかなりの浄化が可能である。

4) 生物化学的酸素要求量やよう素消費量に比較して窒素の除去の方が困難である。

## (2) まとめ

東京都内における優良尿舎と思われるもの35例につき糞尿の処理状況を調査したところ川に放流しているものが最も多く16例、ついで野積6例、埋設5例であり、浄化槽で処理しているものは建設中のものを含めて3例であった。なお完全に農地に還元しているものは1例だけであった。

水質調査をした結果は次のとおりであった。

1) 放流水は充分浄化されていない。

2) 底床活性汚泥方式の浄化槽では、スラム、汚泥の発生が多く、これが浄化槽の機能を低下させるばかりでなく、除去に多大の労力を要する。

3) 短時間の貯留では充分浄化はできないが、長期滞留によりかなりの浄化が可能である。

4) 生物化学的酸素要求量や、よう素消費量に比較して窒素の除去は困難である。

以上のことから、今後の糞尿処理方法としては、大きな貯留槽を畝舎地下に作り、長期向の滞留によって充分腐敗させ、その間に農地に還元できるものは還元して汚染度を下げ、川に放流する場合は更に曝気を行って汚染度を下げたから行うようにし、都市下水道、公共下水道等に放流する時は水で2~3倍に希釈してから行う等の水二次処理を行うべきである。

## 8 昭和39年度 豚産肉能力検定成績(抄録)

宮川正夫 菅原兼太郎

大橋昭也 加藤巴之吉

## 1. 目的

種豚の産肉性に関する経済的能力を把握して能力のすぐれた種豚の造成

と普及を図る。

## 2. 検定方法

当場のかい養種豚から生産され、産子能力検定に合格した同産子豚中から、豚産肉能力検定基準に基き、去勢豚、雌豚各2頭づつ計4頭を選んで、ノ組とし下記3組について実施した。

なお飼養管理その他検定の実施については、すべて豚産肉能力検定規程に従って行った。

## 3. 検定豚

検定豚の血統は次のとおりである。

組別	品種	血統		調査子豚 の生年月日
		父	母	
39-S-1	Y	ストックジャミヨコヤマ 6-4	東36-35マグネットコーイーローズ	39.2.25
39-S-2	Y	東35-29コーイーモンリユー	ニュートンシルバーローズヤマモト6-2	39.5.3
39-S-3	Y	スイトンマイデシウンウラク 2	ツコフジランズカー 5-1	39.3.19
39-S-4	Y	ストックジャミヨコヤマ 6-4	東37-1マグネットコーイーランス	39.4.29
39-A-1	Y	ファイアハラルドニュートンダク 3	ビルススイトンジャンオカモト 2-1	39.9.4
39-A-2	Y	ストックジャミヨコヤマ 6-4	ニュートンシルバーローズヤマモト 6-2	39.9.6
39-A-3	Y	"	ツコフジランズカー 5-1	39.9.11
39-A-4	L(A)	クニカウデナ 62-31	クニカウデナ 62-1068	39.9.20

## 4. 検定成績

### (1) 発育

組別	品種	生後日令			検定所要日数			1日平均増体重		
		開始時	前期終了時	検定終了時	前期	後期	全期間	前期	後期	全期間
39-S-1	Y	65	120	185	55	65	120	492	668	586
39-S-2	Y	77	124	201	47	77	124	493	639	566
39-S-3	Y	82	131	213	49	82	131	476	607	543
39-S-4	Y	86	126	212	40	86	126	472	649	559
39-A-1	Y	90	154	215	64	61	125	475	658	563
39-A-2	Y	85	154	217	74	63	137	439	632	506
39-A-3	Y	83	148	211	65	63	128	466	640	551
39-A-4	L(A)	71	128	185	57	57	114	526	711	617

## (2) 飼料所要量

所要費 組別	品 種	前 期		後 期		全 期 間	
		消費量	要求率	消費量	要求率	消費量	要求率
39-S-1	Y	93.3 <sup>kg</sup>	3.11	154.7 <sup>kg</sup>	3.88	248.0 <sup>kg</sup>	3.55
39-S-2	Y	90.8	3.03	163.9	4.11	254.7	3.64
39-S-3	Y	96.1	3.18	171.4	4.26	267.5	3.79
39-S-4	Y	96.1	3.22	159.5	3.95	255.6	3.65
39-A-1	Y	96.1	3.19	158.5	3.98	254.6	3.64
39-A-2	Y	103.9	3.42	162.2	4.07	266.1	3.79
39-A-3	Y	96.3	3.20	164.7	4.12	261.0	3.72
39-A-4	L(A)	97.3	3.25	165.6	4.13	262.9	3.75

## (3) 七体調査成績

組 別	品 種	屠肉 歩留	屠体長	背 腰 長			屠体幅	口 一 又		
				I	II	III		面積	長径×短径	周囲長
39-S-1	Y	68.5 <sup>%</sup>	89.2 <sup>cm</sup>	74.9 <sup>cm</sup>	65.3 <sup>cm</sup>	49.0 <sup>cm</sup>	32.3 <sup>cm</sup>	17.3 <sup>cm<sup>2</sup></sup>	5.1×4.1	16.9 <sup>cm</sup>
39-S-2	Y	69.4	88.1	75.2	64.7	48.3	32.9	15.9	4.7×4.5	15.6
39-S-3	Y	68.7	89.8	75.6	65.9	50.0	33.5	16.1	4.5×4.2	15.4
39-S-4	Y	68.1	90.1	74.8	66.2	50.1	33.0	17.1	5.5×3.9	17.2
39-A-1	Y	70.2	88.9	74.1	66.0	49.9	33.4	20.8	5.8×4.3	18.2
39-A-2	Y	70.2	87.9	73.1	64.1	48.3	34.3	19.9	5.4×4.1	18.0
39-A-3	Y	68.6	89.5	74.8	65.7	50.2	33.9	17.6	5.0×3.8	16.4
39-A-4	L(A)	69.6	91.7	76.7	67.1	51.2	33.9	19.6	5.6×4.4	17.3

組 別	大 割 肉 片 の 割 合			背 脂 肪 層 の 厚 さ			
	カマ	コース バラ	ハム	肩	背	腰	平均
39-S-1	33.2 <sup>%</sup>	38.0 <sup>%</sup>	30.0 <sup>%</sup>	3.9 <sup>cm</sup>	2.3 <sup>cm</sup>	2.9 <sup>cm</sup>	3.0 <sup>cm</sup>
39-S-2	33.3	37.4	29.4	4.5	2.4	2.9	3.2
39-S-3	31.9	38.0	30.1	3.8	2.0	2.8	2.9
39-S-4	32.6	37.6	29.9	3.9	2.2	2.6	2.9
39-A-1	32.5	36.4	31.1	3.9	2.0	2.8	2.9
39-A-2	33.8	35.8	30.4	4.2	2.1	2.9	3.1
39-A-3	32.7	37.0	30.4	3.7	2.1	3.2	3.0
39-A-4	32.1	35.7	32.2	3.7	2.1	3.3	3.0

#### 5. 種 雄 豚 検 定 成 績

来年度の検定において4群以上の検定を終了した種豚は1豚で 集計値は下記のとおりであった。

ストックジヤミ ヨコヤマ 6-4 (4豚/6頭)

項 目		単 位	平均値±標準偏差		変異係数
検 定 日 数		日	127 ± 5.38		4.24
検定終了時日令		日	206 ± 14.42		7.00
1日平均増体重		g	551 ± 33.23		6.03
飼料要求率			3.68 ± 0.13		3.53
屠肉歩留		%	68.85 ± 0.91		1.32
背 腰 長 II			65.92 ± 0.90		1.38
コースの断面積		cm <sup>2</sup>	17.98 ± 1.30		7.23
脂 肪 層 の 厚 さ	肩	cm	3.9 ± 0.21		5.38
	背	cm	2.2 ± 0.31		10.09
	腰	cm	2.9 ± 0.24		8.28
	平均	cm	3.0 ± 0.08		2.67
ハムの割合		%	30.75 ± 0.13		0.43
1日平均増体重	飼料要求率	背 腰 長 ± 太さ	ハムの割合	脂肪層の厚さ	総合評価
C	C	C-B	B	A	C
9	6	3-4	4	5	3/